

# 道博協ニュース 第125号 (2019年10月18日発行)

## 第58回 北海道博物館大会を終えて

2019年7月17日から18日、第58回大会を北見市で開催しました。

大会テーマは「出会いと学びを通じた学芸員の資質向上の展開～レガシー事業の総括」。昨年度、国立科学博物館が文部科学省から委託を受け、道博協と北海道博物館が連携して実施した「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」を振り返り、その成果を共有しようというものです。

17日の会場は、北見芸術文化ホールの中ホール。午前の表彰式と2本の特別報告に続く午後の研究大会は、昨年度道博協の事務局次長として全体調整にあたった栗原憲一さん（株式会社ジオ・ラボ）に全体の進行をお願いしました。

国立科学博物館連携推進・学習センター長の小川義和さんの基調講演では、同館が全国各地で実施してきたこうした事業のなかで、北海道の場合、道博協のもつネットワークが重要な役割を發揮したとの指摘が印象的でした。

続いて、この事業のもとで昨年度9月から2月にかけて各ブロックで開催した研修会や巡回展のうち、「資料の取扱と修復について」（美幌町）、「博物館施設における多言語化」（江差町）、「博物館の展示制作について考えよう」（釧路市）の三つの研修会について、各会場の運営にあたった三人の方による個別報告がありました。

会場からは、それぞれの研修が工夫に富み、刺激的なものだったことを知って、用務多忙や遠距離が理由で参加できなかったことを残念がる声も聞こえました。

討論のなかで特に関心が集中したのは、充実した研修であったのはいいとして、それが国の予算が確保できたある一年だけに終わらないようにするにはどうしたらいいか、でした。

多言語化をテーマとした江差の研修については、その様子を記録したDVDが制作されており、それを活用して研修成果の共有ができる（貸出し希望者は事務局にご連絡ください）といった策の紹介も出たものの、より長期的には道博協や各地域ブロックなどの働きにかかるところが

大きいように思われました。



博物館大会の様子

翌日のエクスカーションは、北網圏北見文化センターの皆さんのご協力で、「史跡常呂遺跡を巡る」と「近代建築を中心にみる北見市の文化財」の二つを用意することができました。面積も対象とする時代も、大きな広がりがある北見市の文化財を、市川さん、中村さん、太田さんのご案内で深く知ることができました。

大会の準備や運営には、網走管内博物館連絡協議会の皆様に多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。一方で、17日昼のポスター発表の際、十分な発表時間を確保できない方がいたなど、事務局の不手際も多々ありました。ご迷惑をおかけした方々にお詫びします。

来年は士別市の大会でお目にかかりましょう。

(事務局 山田伸一)



エクスカーションの様子

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

## ブラキストンとダンの子孫の

### 博物館訪問

2019年3月に Andera Vachon さんが北海道の博物館を訪問されました。Andrea さんは「ブラキストン線」に名前を残す鳥類学者トーマス・ブラキストンとお雇い教師として北海道の畜産業の発展に寄与したエドウィン・ダンの姉アン・マリー夫妻の曾孫にあたる方です。この訪問は、ブラキストン標本のコレクションヒストリー研究に力を入れている北大植物園・博物館とブラキストンの歴史研究を行っているイギリス人研究者が共同で関連史料を探索してゆく中で、ブラキストンの子孫にコンタクトをとったことが契機となりました。

Andrea さんは函館でブラキストンゆかりの地を巡り、函館市中央図書館に残されているブラキストン関連の文書を見学した後、札幌の北大植物園・博物館でブラキストンが採集した鳥類標本や標本をモデルとした絵画資料に触れ、先祖の活動に思いを馳せていらっしゃいました。

エドウィン・ダン記念館では展示室でダンの業績を学ぶとともに、これまでに記念館を訪問したダンの子孫の情報の説明を受け、遠い親戚の存在を確認されていました。この見学の中で、Andrea さんがエゾオオカミの絶滅に関わる情報を知り、時代背景はあるとはいえ、ダンが行った活動について涙を流していたことが印象に残っています。



Andera Vachon さん  
(エドウィン・ダン記念館にて)

Andrea さんの自宅にあったブラキストンの資料は処分されてしまったとのことですが、スミソニアンにあるブラキストンの標本ノートによって、ブラキストンだけでなく協力者だった開拓使の福士成豊の足跡もたどることができるようになってきました。Andrea さんはこのような業績を欧米で出版するためのサポートを申し出てくれています。自然史標本に関わる情報も北海道の歴史の一部を形作っており、分野を超えた調査・交流の重要性と可能性を再認識させられた訪問でした。

(北海道大学北方生物圏)

フィールド科学センター植物園助教 加藤克)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

## 道南ブロック博物館施設等

### 連絡協議会総会及び研修会を

### 開催しました

令和元年6月28日(金)、八雲町公民館にて道南ブロック博物館施設等連絡協議会総会及び研修会を開催しました。

総会終了後、午後からおこなわれた研修会で

は、来春の国立アイヌ民族博物館などの開設に向けて高まりを見せるアイヌ文化への関心をよそに、私たち学芸員がどのようにアイヌ文化に接することができるのかをテーマとして、北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授 北原モコトウナシ氏を講師にむかえ、「民族的マイノリティ/マジョリティ教育について—現状と展望—」と題して、ご講演をいただきました。

講演では、「博物館展示・社会教育事業におけるアイヌ民族(マイノリティ)の取り上げ方」を主なテーマとして、外からの視点による「アイヌ文化/民族の魅力を伝える」、マジョリティ

主体の展示が価値の画一化を生んでいる現状を確認するとともに、公共性を再認識し、当事者のニーズを取り入れた「共生」につながる展示とはなにかについて、様々な例を提示しながら講演がすすめられました。



研修会の様子

普段アイヌ文化に関する展示を行っていない館もあるため、一般的な儀式や口承文学、文様、アイヌ語、音楽など、アイヌ文化に関するあら

ましの説明もあり、「知っている」「聞いたことがある」事柄を確認することもできました。また、従来は文化の独自性ばかりが強調されるなかで、あまり触れられてこなかったアイヌ文化と「和人」や中国などの周辺民族との比較による文化の関連性など、新たな視点からの紹介や、実際に、子どもたちに親しみやすくアイヌ語に接してもらえるような、アイヌ語発音の教え方やアイヌ語によるジャンケンなどの実践も、会場の参加者と共に行なわれました。

民族の「共生」を標榜する社会のなかで、博物館がどのような展示を行ったらよいか、消化しきれないぐらいの盛りだくさんの内容でしたが、講演の中であげられていた、様々な立場を客観視すること、歴史的・地理的視点をもつこと、過度な美化や特定の立場を中心としないなど、様々な例を提示いただくことで、普段博物館事業を通して接してきたアイヌ文化に関して、新たな視点を得ることができました。講演で知り得たこと、改めて問題提起されたことを省み、今後の運営に役立てていきたい。

(函館市北方民族資料館主事 山田早紀)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

## 令和元年度日胆地区博物館等連絡協議会総会・研修会 開催報告

6月5日・6日の両日、新ひだか町博物館を会場に、胆振・日高の各館園から関係者26名が参加して、今年度の総会・研修会が開催されました。

総会に先立って開催された研修会では、「地域おこし協力隊員に学ぶ人口減少時代の博物館運営」をテーマに、人口減少や高齢化が進む地域社会で地域力の維持・強化を図るための担い手として活躍されてきた、新ひだか町の糸井いくみ氏・様似町の水永優紀氏・えりも町の高木大稔氏の、3名の地域おこし協力隊隊員から活動事例の報告を頂き、その事例から今後の地域における博物館のあり方を考えました。

いずれの報告も、地域の自然や歴史、文化や



菊紋の透かしのある木製の電灯傘（龍雲閣）

産業といった分野で、地元の住民にあまり知られていない事柄に光を当て、魅力ある教育的資源として掘り起こす取り組みで、今後の地域の博物館が活動を展開していく上で、非常に示唆に富んだものとなりました。

総会では、役員改選があり、会長に森岡健治館長(平取町アイヌ文化博物館・沙流川歴史館)、事務局長に谷中聖治学芸員(室蘭市教委)が選出され、新体制がスタートしました。

2日目の現地見学は、桜並木で知られる二十間道路の奥にある「龍雲閣」を見学しました。この建物は、宮内庁の御料牧場として御料馬の生産や軍馬の拠出を行っていた「新冠御料牧場」の貴賓客舎として明治42(1909)年に建てられました。当時の皇室・政府高官に宿泊所として利用され、皇太子時代の明治天皇や昭和天皇、

伊藤博文なども訪れています。

見学では、「御座所」となる部屋の設えや、皇室に関連する施設に特有の意匠などに目を凝らし、しばし往時に思いを馳せました。

(新ひだか町博物館主幹／学芸員 小野寺聡)

## 道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

### 2館連携特別展

#### 「森を支えるきのこ」

士別市立博物館では、9月28日から11月3日まで、特別展「森を支えるきのこ」を開催しています。きのこの分類学的な位置づけや自然の中で果たしている生態学的な役割、地域の菌類(きのこ)相などを紹介する内容となっています。きのこの凍結乾燥標本(色や外形の変化を抑えたもの)を数多く展示するとともに、きのこの自作レプリカを利用したジオラマも展示しています。本展は、富良野市博物館と共催で取り組んでいるもので、2館で巡回しています。

本展のような近隣の他館と連携した生物分野の特別展としては、一昨年はチョウ、昨年は骨格標本をテーマに開催しました。いずれの展示についても、写真や解説パネルだけでなく、博物館が普段から収集・保管している生物標本を中心に展示し、標本を通して実物の魅力を伝えることを心がけています。地域の生物相を調べ、残していくための標本の重要性を知ってもらうということでもあります。

他館と連携することで、展示資料を持ち寄ったり、各館で収集している情報を集約することで、自館だけで取り組むよりも内容を充実させられます。また、他館の展示ノウハウを知る良い機会にもなります。本展でのジオラマは富良野市博物館の泉学芸員にご尽力いただきましたが、作製にあたる工夫や、地元の高校生や地域

の方々との協力を得る事例など、当館でも取り入れたいと思う事例が多数ありました。

同じ地区とは言いつつも道北の広大なエリア故の距離的な制約や役割分担の仕方、展示内容のテーマ設定など、連携のあり方としては試行錯誤ですが、今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。なにか一緒に取り組むことができるテーマがありましたら、ぜひお声かけください。



2019年きのこ展ポスター

(士別市立博物館学芸員 本部哲矢)

網走管内博物館連絡協議会 NEWS

## 紋別市立博物館特別展

## 「哲学者～井上円了の世界」

紋別市立博物館では令和元年6月1日から6月30日まで、東洋大学創始者として知られる哲学者の井上円了（1858—1919）氏の没後100年にちなみ、井上氏の生い立ちや紋別との縁を貴重な資料（約30点）を通じて振り返る特別展を開催しました。

井上氏は1885年東京大学哲学科を卒業後、東洋大学の前身となる哲学館の開学に向けた寄付金集めのため全国各地を行脚していた井上氏は明治40年9月に紋別を訪ね、古屋憲英医師が営む静春堂医院に泊まり、圓滿寺で講演を行いました。井上氏の来紋は後に紋別の学校教育にも影響をもたらし、詩人の勝承夫（よしお）氏に市内の5つの小中学校の校歌の作詞と繋がっていきます。

特別展では、井上氏が紋別を訪れた際、人々の温かさに触れ感動したことを記した書や当時の紋別の風景写真などや、勝氏による紋別小学校校歌と紋別大谷認定こども園歌の直筆原稿や圓滿寺の橋薫氏らとの手紙、妖怪研究の足跡の紹介も含め展示しました。

また、関連事業として、井上円了研究の第一人者である三浦節夫・東洋大学教授による講演会「明治の先駆者・井上円了」を開催し、僧侶の家に生れた円了が哲学に目覚めた背景や、紋

別など道内各地を巡構した際のエピソードなどを解説しました。



展示の様子

井上氏が哲学の道に目覚めたのは学生時代の気付きが背景にあったことや追い求めた心理は儒教や仏教、キリスト教には無く、西洋で研究が進んでいた哲学のみであったという。大学を首席で卒業した井上氏は文部官僚や教理学者としての道を選ばず、日本に哲学を広めるとともに経済的に恵まれない人も学べる場所を提供しようと東洋大学の母体となる哲学館を創設したが、当時の私学は実学を扱うのが主流なのか、哲学専門の私学は珍しい存在だったという。なかでも、勝海舟が精神面や金銭面で支援していたことは驚く事実で、参加者は初め聞く井上氏の一生に耳を傾けていました。

（紋別市立博物館館長 志子田悟）

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

## 「忠類ナウマンゾウ」発見50周年 企画

1969年の発見から50年たちました。「忠類ナウマンゾウ」は、原標本を所蔵する北海道博物館ではシンボル展示として来館者を迎えています。北から来たケナガマンモスと対峙し、まさに北海道を象徴する化石となりました。地元「幕別町忠類ナウマン象記念館」では、展示室の中心に立つ復元骨格を囲んで、発見から復元にいたる経過が生々しく紹介されています。

50周年記念事業を展開します。

特別展「忠類で発見された化石たち～忠類ナウマン象化石の里帰り」。10月5日～11月4日の1ヶ月間、実物の化石標本すべてが、はじめて里帰りし、ナウマン象記念館の展示がレプリカから実物標本に置き換わります。ふだんは見られない実物化石、是非ご覧ください。北広島市でつくられたケナガマンモスも活躍します。

同時特別展「忠類ナウマン象展」を同期間に足寄動物化石博物館で開催します。アジアゾウ骨格とナウマンゾウの化石レプリカを並べ、大きさや形の比較をおこないます。

講演をお願いしています。発掘の様子、生きているゾウ、研究の進展をお伝えします。

◇10月27日(日)9:00～「1969 奇跡の夏～生涯の思い出」北教大名著教授木村方一さん  
13:00～「ゾウが来た道平成版 ミャンマーから来たゾウ達」円山動物園・朝倉卓也さん／忠類コミュニティセンター

◇11月2日(土)18:30～「忠類に生き、忠類によみがえったナウマンゾウ」琵琶湖博物館・高橋啓一さん／ナウマン象記念館

発掘調査をおこないます。以前の発掘調査のトレンチを広げて新しい化石を探します。10月29日～11月2日と短期間の勝負です。ねらいは骨化石包含層の下位にみつかった足跡化石で、歩いた跡を平面で掘りだします。公開します。／幕別町忠類晩成の発掘現場跡地



忠類ナウマン象記念館の復元骨格

(幕別町忠類ナウマン象記念館 鎌田 浩  
足寄動物化石博物館 澤村 寛)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

## 動物園・水族館を法制度から考える

動物園・水族館を知らない人は、たぶんいないと思います。では、「動物園って何?」「水族館って何?」という問いに答えられる方は、いるでしょうか?

実は、動物園・水族館業界にいる我々でさえも、「動物園・水族館とは何か」「どういった要件をクリアしたら動物園・水族館なのか」ということに対する統一した答えは持っていません。それはなぜかというと、現在、少なくとも我日本国には、「動物園・水族館」の定義が存在せず、法律の規定もないからです。

一般的には、博物館法や動物の愛護及び管理に関する法律(以下「動物愛護法」)で規定されていると考えられていますが、これらの法律には、「動物園」や「水族館」という言葉は一つも書かれていません。

博物館法は、博物館の定義について第2条で『歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせ

てこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関』と定めていることから、自然科学等に関する資料を収集し、保管、育成という面から類推解釈し、動物園・水族館は、同法の範疇であると捉えられています。

また、動物愛護法は、動物園・水族館を第一種動物取扱業者と位置付けて、登録を義務付けていますが、このカテゴリーには、ペットショップやサーカスなども入りますし、法律では、「動物の販売、保管、貸出し、訓練、展示を業として行う」ことを第一種動物取扱業としているだけで、動物園・水族館という言葉は出てきません。

では、動物園という言葉が出てくる法律が一つも無いかというと、実は、都市公園法と自然公園法に出てきます。しかしながら、これらの法律では、公立動物園について、「公園施設」や「公園事業となる施設の種類」として、植栽やベンチ、駐車場、休憩所、便所などと同列に規定しているだけです。

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律にも、動物園・水族館という言葉が出てきます。この法律には、第2条に「動物園、植物園、水族館その他野生動植物の飼養又は栽培(以下「飼養等」という。)及び展示を主たる目的とする施設として環境省令で定めるもの」という規定があるので、『おっ!環境省令に定義があるのか?』と一瞬期待させられますが、環

境省令には、第1条の3に「昆虫館又は動物園、植物園、水族館若しくは昆虫館に類する施設」と規定されているだけで、どのようなものが動物園・水族館なのかという疑問には答えてくれません。

このように、法律的には、動物園・水族館は、明確な定めがないのが、日本の現状なのです。

札幌市では、このような状況を踏まえ、将来にわたって動物福祉に配慮した動物園運営を担保するとともに、今後も持続可能な動物園運営を行っていくための国内外の動物園・水族館との連携・協力の強化に向けて、信頼をさらに深

めていくため、「動物園条例」を制定することといたしました。

具体的には、これから学識経験者のお力添えをいただきながら、市民の皆さまと一緒に検討していきますが、札幌市が考える動物園・水族館の意義や役割など、大きな視点から動物園・水族館の普遍的な姿を定める条例にすることとしています。検討期間は約1年半を想定しており、令和3年度の早い時期の制定を目指しています。

(札幌市円山動物園園長 加藤 修)

#### 学芸職員部会 NEWS

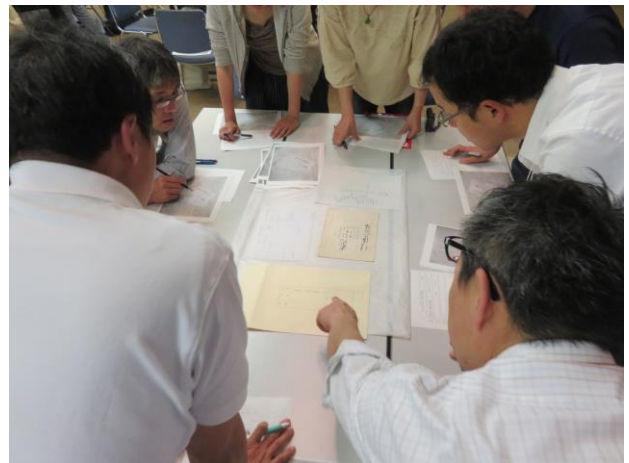
### 「資料の貸借マナーと技術の共有化」を学ぶ研修会に過去最多の参加者が集いました！

令和元年度の北海道博物館協会学芸職員部会研修会・総会が9月25日・26日に白老町コミュニティセンターで開催されました。今回の研修会は日胆地区博物館等連絡協議会との共催、また来年4月24日オープン「ウポポイ（民族共生象徴空間）」の国立アイヌ民族博物館との連携をふまえた内容ということもあり参加人数は過去最多の78人、当研修会のねらいでもある「明日使える技」の取得を目指しました。



研修会1日目の様子（岡田先生の講演）

今回のテーマは「資料の貸借マナーと技術の共有化～カルテ作成から梱包まで」として1日目は講師に古原敏弘氏（元北海道立アイヌ文化研究センター）と岡田恵介氏（アイヌ民族文化財団）による「アイヌ民具の梱包」について座学と実技を行いました。2日目は「資料貸借の実際～カルテ・作成・注意点～」を北海道博物館の三浦泰之氏の講義、事例報告（アポイ岳ジオパークビジターセンター加藤聡美氏ほか1件）、そしてカルテ記入のワークショップを行いました。



ワークショップ（カルテ作成）みなさん真剣でした

総会では役員改選が行われ新体制となり早々に来年の研修会づくりの協議がはじまりました。

(小樽市総合博物館 佐藤卓司)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

## 北海道青少年科学館連絡協議会での視察報告

科学というと物理の法則や化学実験をイメージする人が多いかもしれませんが、科学館の扱う分野はとても広く、切り口によっては複数の学習分野にまたがった多様な学習の機会を提供しています。

科学館だからこそ、企画の引き出しの多さ、幅の広さも大事にしたいですが、面白いテーマ探しにも悩まされます。北海道青少年科学館連絡協議会では、科学館はもちろん、科学以外の博物館も含めて話題の施設を視察しヒントをもらっています。

旬の話題と言えば来年の東京オリンピック。スポーツと科学というのも面白そうなテーマです。そこで、今年度は札幌の「オリンピックミュージアム」を視察しました。この博物館は、オリンピックをテーマに歴史的起源や文化、スポーツを広げた人の業績などの資料だけではなく、ウィンタースポーツの体験型展示物もあります。体験型学習を重視している科学館としては、どんなスポーツをどのように体験型の展示物で学ぶことができるのかは気になるところ。



思わずにっこり、道科協メンバーで記念写真

例えば、スケートは、滑りの良い板の上を反復横跳びのように左右交互に足を滑らせる動作を繰り返す、その歩幅と回数を競い合う展示物になっていました。私たち大人がやると基準の幅を横滑りするのにも四苦八苦、すぐに汗だくになってしまいますが、子どもたちには思いっきり体を動かし、選手の体の動きを体験できるので大人気のコンテンツとのこと。その他、スキージャンプ台の人工芝の展示もあり、スポーツを取り上げる切り口の多様さを感じる視察となりました。

当館も含め予算と一緒に事業を縮小する館も増えてきましたが、お金がない分、道博協の加盟館同志の交流でアイデアをもらいながら乗り切っていきたいと思います。

(札幌市青少年科学館 木野翠)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

## 第27回北海道美術館学芸員

### 研究協議会

北海道美術館学芸員研究協議会では、本年3月7日と8日の両日、北海道立近代美術館を会場に第27回研究協議会を開催しました。各日の参加者はそれぞれ、62、50名でした。

1日目は、『縄文の思想』の著書などで知られる考古学者・アイヌ研究者で札幌大学教授の瀬川拓郎氏による講演会を実施。「なぜいま縄文なのか？一生き残る日本列島人の原初の思想をめぐって」というテーマで、「心の文明」ともいえる縄文文化の特性が日本列島の非農耕民のなか

に受け継がれてきたことを考古学・神話伝説・民俗誌などのさまざまな事跡を通してお話しいただきました。



瀬川拓郎氏による講演



続いて、有島記念館の伊藤大介氏、木田金次郎美術館の岡部卓氏による「地域発掘プロデュース・有島武郎と木田金次郎展」、北海道立近代美術館の松山聖央氏による「35年振りの深井克美展—Re-curationの課題と可能性」の2つの事例報告がありました。

2日目は「これからの美術館のありかた」というテーマで討議を行いました。「会報の今後」「インバウンド」「オーラルヒストリー」という

3つの分科会に別れ、それぞれ少人数のグループ内で活発に意見を交わした後、全体討議においてさらに議論を深めました。

参加者一人一人が主体的に意見を述べ、討議に加わるこのような場を通して、会員の資質向上に取り組んでいきたいと考えています。

(北海道美術館学芸員研究協議会 苫名 真)

## イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2019年10月～2020年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

### 石狩

#### 札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

期間	タイトル
9/14～11/4	特別展「奇蹟の芸術都市バルセロナ展-ガウディからピカソ、ミロ、ダリまで-
9/27, 10/15	「奇蹟の芸術都市バルセロナ展-ガウディからピカソ、ミロ、ダリまで-」関連事業 学芸員によるギャラリートour
10/12	ミュージアムコンサート (チェンバロ演奏)
11/19～2020/1/13	特別展「タグチ・アートコレクション 球体のパレット」
2020/1/25～4/12	特別展「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ-線の魔術-

#### 札幌市青少年科学館 (011-892-5001)

期間	タイトル
10/5	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2019
10/5	スペシャルサイエンスデー特別講演会 「南極テント生活～マイナス30℃の極限で生きるヒントは食」
10/26/, 27	企画展「第12回 環境科学展」
12/7, 8, 14, 15	イベント「プラネタリウム祭り」
12/15	講座「科学館を楽しむ方法講座」
2020/1/5～19	冬の特別展「地球のフシギを体感! Hawaii (ハワイ) 展」

#### 北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
10/6	子どもワークショップ「ガリ版でいんさつ屋さん!」
10/12～12/15	企画テーマ展「エゾシカ」
10/19	シンポジウム「いま、あらためてエゾシカ問題を考える」
11/3	特別イベント「ミュージアムコンサートアイヌ音楽ライブ」
11/3	文化の日講演会「植物を食べるシカ、シカに食べられる植物」
11/9	自然観察会「紅葉の森で動物を探そう!」

11/10	アイヌ語講座「アイヌ語 はじめの一步」
11/16	特別イベント「エゾシカまつり」
11/17	ちゃれんがワークショップ「稲わらで縄をつかって、巨大人間あやとりに挑戦！」
11/24	ミュージアムカレッジ「開拓の頃のエゾシカと人」
11/30	ちゃれんがワークショップ「鳥のつばさの標本をつくろう！」
12/1	子どもワークショップ「文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり」
12/7	子どもワークショップ「貝の化石で標本をつくろう！」
12/8	アイヌ語講座「アイヌの物語を聴いてみよう」
12/15	ミュージアムカレッジ「歴史の中の「声」を聴く：北海道アイヌ協会創設のころ」
12/22	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり」
2020/1/11	アイヌ語講座「じっくり！「見て聞いてアイヌ文化の世界」」
2020/1/18, 26	特別イベント「博物館のバックヤードを見てみよう」
2020/1/25	子どもワークショップ「雪のなかで宝さがし」
2020/2/8～4/5	企画テーマ展「北海道神宮」
2020/2/8～4/5	蔵出し展「模型でみる札幌建築物語」
2020/2/8	ちゃれんがワークショップ「羊毛を紡ぐ①」
2020/2/9	ちゃれんがワークショップ「羊毛を紡ぐ②」
2020/2/16	ミュージアムカレッジ「渡島半島に暮らしたアイヌ民族の歴史と文化」
2020/2/29	自然観察会「雪の森で動物を探そう！」
2020/3/1	ミュージアムカレッジ「じっくり見よう！アイヌの着物」
2020/3/22	ミュージアムカレッジ「択捉島紗那の学校と高城重吉」

#### 小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
8/6～11/30	企画展「明治・大正 政治家の書 展」
10/12	ギャラリートーク「北海道に渡った明治の政治家」(本間孤峯先生)
11/23	ギャラリートーク「漢詩家としての政治家たち」(佐藤岳邦先生)
12/6～2020/3/31	企画展「桑原翠邦 展」
12月	ギャラリートーク(表題・講師未定)
2020/1, 2, 3月	ギャラリートーク(表題・講師未定)

#### 北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
4/28～11/3	史跡旧島松駅通所の開館
9/28～10/27	中山久蔵翁没後100年展
10/12～10/22	史跡旧島松駅通所ライトアップ
11/23～2020/2/23	きたひろ学校展～うつりゆく学び舎～

#### いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
9/14～10/28	テーマ展「海浜ホテルー砂浜に消えたリゾートホテルー」
10/5	体験講座「サケ切身骨格標本をつくる」
11/10	野外講座「石狩ビーチコマーズ/秋の海辺の漂着物」
11/17	体験講座「アイヌ文様ペンダント作り」
12/14	体験講座「フライドチキン骨格標本をつくる」
2020/1～3月	テーマ展「資料館のお宝2020」
2020/1月下旬	連続講座「石狩大学博物館」
2020/3月上旬	野外講座「石狩ビーチコマーズ/冬の海辺の漂着物」

## 後志

## 小樽市総合博物館(0134-33-2523)

期間	タイトル
9/26～2020/1/9	運河館トピック展「小樽のヒカリゴケとコケの世界」
10/12～12/1	本館企画展「ジオラマの魅力 畑めいの世界」
10/13, 11/10	講演「運河館トピック展ギャラリートーク」
11/3	企画展ワークショップ
12/21～ 2020/3月下旬	本館企画展「小樽の銘酒これあり候」
2020/1月中旬	講演「企画展ギャラリートーク」
2020/1/11～3/31	運河館トピック展「小樽の精米業(仮)」
2020/2月中旬	講演「運河館トピック展ギャラリートーク」

## 西村計雄記念美術館(0135-71-2525)

期間	タイトル
9/27～10/8	北海道立近代美術館 移動美術館
9/27～10/8	開館20周年記念展「西村計雄記念美術館 20年のあゆみ」(前期)
10/12～12/1	公募展「しょうかいしたいな!わたしのだいすき」
10/12～2020/2/16	開館20周年記念展「西村計雄記念美術館 20年のあゆみ」(後期)
10/26	開館記念イベント(コンサート等)
11/16	講座・イベント「トライアート『こびとづくりに挑戦!』&カフェルール」
12/4	西村計雄命日 無料開放
12/7	講座「トライアート『カラフル墨汁で書き納めに挑戦!』」
2020/1/4	講座「お正月だヨ!おやこでてづくりたこあげ大会」
2020/2/8～3/8	公募展「第16回箱絵展」

## 岩内町郷土館(0135-62-8020)

期間	タイトル
10/5～11/24	第4回企画展「岩内大火65周年記念展パートII『復興の足跡と飢餓海峡』」
10/5	DVD上映会「岩内市民劇場第6回公演『わが町』」
10/27	第6回歴史講座「映画『飢餓海峡』上映会」
11/3	コンサート「郷土館いくベコンサート」(予定)

## 一般財団法人荒井記念美術館(0135-63-1111)

期間	タイトル
8/21～11/10	西村計雄常設展Ⅱ期「西村計雄の太陽」
9/11～11/10	ピカソ版画常設展Ⅲ期「ピカソと動物たち」
11/11 ～2020/4月中旬	冬季休館

## 渡島

## 函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
10/20	縄文体験講座「自然観察会～秋の自然観察会～」
11/3	縄文体験講座「秋の縄文染め～自然の植物で布を染めよう～」
11/30～12/26	企画展「目指せ！世界遺産登録『北海道・北東北の縄文遺跡群』（仮称）」
12/22, 23	縄文体験講座「縄文体験・鹿角アクセサリーづくり」
2020/2/9	縄文体験講座「令和元年度遺跡調査報告会」
2020/3/24～31	縄文体験講座「縄文クイズラリー」

## 八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 (0137-63-3131)

期間	タイトル
8/17～11/24	企画展「ペザントアート～八雲における農村美術運動～」
10/5～11/10	企画展「重要文化財コタン温泉遺跡出土品展」
10/20	体験学習「少年文化財教室 昔のおもちゃづくりとアイヌ文様切り絵」
11/3	体験講座「八雲く文化の日茶会」
2020/1/11 (予定)	体験学習「縄文文化体験講座 勾玉づくり」
2020/2～3月	企画展「収蔵美術品展 (仮)」

## 胆振

## 室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
8/16～10/6	企画展「明治初期の武士団開拓と室蘭」
10/20	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『焼き芋と木製コースターづくり』体験学習会」
11/23(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『干支凧づくり』体験学習会」
12/8(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『しめ縄づくり』体験学習会」
12/15(予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『石臼もちつき』体験学習会」

## 苫小牧市美術博物館 (0144-35-2500)

期間	タイトル
10/5～11/24	企画展「NITTAN ART FILE 3：内なる旅～モノに宿された記憶」
10/5～11/24	中庭展示「Vol.13 坂東史樹『小さくて深い空』」
12/7～2020/1/19	企画展「浅野武彦の木版画の世界」
12/7～2020/1/19	収蔵品展「ユア・セレクション～所蔵名品選展より」
2020/2/8～3/29	企画展「大正・昭和の鳥瞰図と空から見た昭和30年代の苫小牧」
2020/2/8～3/29	特集展示「映像展示 (仮称)」

## 日高

## 沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
10/1～12/1	沙流川歴史館特別展「明治の平取 Reminiscences - Biratori in the Meiji Era」

## 上川

## 北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
9/14～11/10	特別展「没後 20 年 岩橋英遠展」
9/14～11/10	常設展「自然の風景 日本画の世界」
10/12	北海道教育大学旭川校連携ギャラリー・トーク
10/13	ギャラリー・トーク
10/19	岩橋英遠の画業一虹を見つめてー
10/26	ミュージアムコンサート「日本の調べ」
11/1	ナイト・ツアー
11/30～2020/3/15	特別展「七彩の美 旭川ゆかりの画家たち」
11/30～2020/1/19	常設展「没後 30 年 砂澤ビッキ展」
2020/1/23～3/15	常設展「イロイロな木」

## 網走

## 北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
8/14～11/4	ミニ企画展 博物・新規収集品展「絵葉書コレクション」
11/3	イベント「科学の祭典」
11/9 ～2020/2 月末	ミニ企画展 (内容等未定)
11/9～2020/3/1	企画展「アイヌの民族衣装展」
11/15, 16	プラネタリウム舞台公演「神々の謡」
11/22, 23, 24	上映会「熟睡プラネタリウム」
12/7, 8	企画展「北見市高校生美術展」
12/20, 21	プラネタリウム特別投影「クリスマスファンタジー」
12/21～2020/2/9	美術企画展「歌川広重 二つの東海道五十三次」
2020/2/14	プラネタリウム特別投影「バレンタインナイト」
2020/2/22～3/1	企画展「美術館講座合同作品展」
2020/3/14, 15	イベント「道展移動展ワークショップ」

## 博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
9/1～12/31	企画展「ニポポ人形の誕生」
10/6	体験講座「槐の木でニポポを彫ろう」
10/20, 27	ワークショップ「農園体験」
11/17	体験講座「ランプシェードとキャンドル作り」
12/22	体験講座「干支のカレンダー作り」
12/27	年中行事「正月準備 鏡餅と繭玉作り」
2020/1/7	年中行事「七草粥と絵馬作り」
2020/1/11	年中行事「鏡開」
2020/1/12	体験講座「かんじきを作り森の中を歩こう」
2020/2/1～3/31	企画展「収蔵資料展」
2020/2/3	年中行事「節分」
2020/2/16	体験講座「消しゴムはんこで春色カード作り」
2020/3/1	ワークショップ「桜餅作り」

**北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)**

期間	タイトル
10/19	はくぶつかんクラブ「フェルトでつくるシロクマのコインケース」
10/20	講習会「お細工物 押し絵のおひなさま」
10/26～11/10	ロビー展「南隆雄 コレクション・サーベイー北海道立北方民族博物館」
10/27	解説会「アーティストトーク 南隆雄 コレクション・サーベイ：北海道立北方民族博物館」
11/9	講習会「アイヌの伝統楽器ムックリ」
11/10	講習会「ハンガリー刺繍のブローチ」
11/23～12/15	ロビー展「写真展 モンゴルの風景：遊牧世界の子どもたち」
11/24	解説会「遊牧世界の子どもたち」
12/14	はくぶつかんクラブ「革とフェルトでつくるオリジナルカレンダー」
2020/1/4～1/19	ロビー展「オホーツクシリーズ⑬ 北の状景から」
2020/1/18	講習会「初めての歩くスキーツアー」
2020/1/25	はくぶつかんクラブ「かんじき体験」
2020/2/1～4/5	企画展「北のファーストネーションズ～北米北西海岸の人びと」
2020/2/2	解説会「企画展展示解説会」
2020/2/15	講座「サハ共和国での調査から」
2020/3/7	講習会「チルクット織り」
2020/3/8	講座「トリングットの文化と環境」
2020/3/14	はくぶつかんクラブ「北方民族の太鼓をつくろう」
2020/3/22	講座「日本とアラスカ先住民の歴史」

**北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)**

期間	タイトル
10/2～10/31	「第5回 木の香り こがし絵展」
10/5	ビーチコーミング
10/6～10/13	J Aオホーツクはまなす青年部主催「絵・ポスターコンテスト」作品展
12/5～12/25	巡回パネル展「日本の深海調査の開拓者」
2020/1 月上旬～2 月上旬	コムケ写真展～コムケ案内人が出合った自然風景
2020/1 月中旬	科学教室
2020/3 月～	原志利・田元正人・秋山将貴写真展「オホーツクの自然と魅力」(仮称)
2020/3/28	春休みイベント

**美幌博物館 (0152-72-2160)**

期間	タイトル
～10/20	企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より～」
10/6	イベント「開館記念日記念行事」
10/9, 11	プチ工房「ジャンピングバッタをつくろう」
10/19	体験会「シルクスクリーンのワークショップ」
11/2～11/24	企画展「交通安全ポスター展」
11/13, 15	プチ工房「木のカスタネット」
11/16	講演会「石器の傷からみえてくる旧石器時代の生活」
12/7～2020/1/19	企画展「おひろめコレクション展」
12/18, 20	プチ工房「しめ縄飾り」
2020/1/22, 24	プチ工房「化石を掘りだそう」

2020/1/25	イベント「みどりの村雪の遊び広場記念行事」
2020/2/1～3/8	企画展「冬季作品展」
2020/2/9～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2020/2/19, 21	プチ工房「フェルトの小物入れ」
2020/3/11, 13	プチ工房「ストローのコースター」
2020/3/28	講演会「私たちのふるさと情報」
2020/3/28～10/25	企画展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」

**紋別市立博物館(0158-23-4236)**

期間	タイトル
9/21～10/20	特別展「アートとの対話『記憶について』」
10/5	博物館体験講座「木のつるを編んでリース作り」
11/9	番屋講座「ぶんぶんぜみを作ろう！」
11/16～12/8	特別展「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/7	体験教室「そばづくり体験講座」
12/14	番屋講座「昔の遊びを皆で体験しよう！」
2020/1/9	体験教室「子ども考古学体験 勾玉作り体験」
2020/1/11	番屋講座「百人一首といろはカルタ」
2020/2/1	番屋講座「お雛さまを作ろう！」
2020/3/14～3/29	特別展「第16回博物館サークル活動作品展」
2020/3/14	番屋講座「昔なつかし街頭紙芝居と飴細工」

**ところ遺跡の森(0152-54-3393)**

期間	タイトル
10/1～2020/3/31	企画展「記念物100年展」
2020/2月(予定)	講演会「ところ遺跡の森講演会」

**十勝****帯広百年記念館(0155-24-5352)**

期間	タイトル
10/12	博物館講座「レコードと音の文化史32」
10/20	博物館講座「ぶらり帯広・文化財めぐり」
11/16	博物館講座「ものがたりの昆虫7」
11/26～12/22	ロビー展「マッチ箱展3」
12/21	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/22	体験教育「まが玉作り教室」
2020/1/11～2/2	ロビー展「十勝・帯広むかしの絵はがき展3」
2020/1/18	博物館講座「十勝川流域の擦文文化」
2020/2/15	博物館講座「民俗学への誘い」
2020/3/7	博物館講座「学芸員のしごと～学芸活動報告会～」

**忠類ナウマン象記念館(01558-8-2826)**

期間	タイトル
2019/4月 ～2020/3月	記念事業「忠類ナウマン象化石発見50周年記念事業」
10/5～11/4	特別展「忠類ナウマン象化石骨の里帰り」

10/27	記念講演①「1969 奇蹟の夏～生涯の思い出」 (講師：北海道大学名誉教授 木村方一氏) 記念講演②「ゾウが来た道 平成版 ミャンマーから来たゾウ達」 (講師 円山動物園飼育展示課 朝倉卓也氏)
10/29～11/2	記念発掘「忠類ノウマン象足跡化石の発掘調査」
11/2	記念講演「忠類に生き、忠類によみがえったノウマン象」 (講師：滋賀県立琵琶湖博物館館長 高橋啓一氏)

## 釧路

### 釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
10/3～10/27	企画展「タンチョウイラスト展」
10/6	体験講座「こすって写す土器模様～カラー拓本体験」
10/20, 11/17	自然観察会「春採湖畔探鳥会」
11/2～2020/1/12	企画展「私の博物館『石炭列車写真展』」
11/3	体験講座「黒曜石ナイフは切れるかな？切れますよ！」
12月下旬	体験講座「おそなえもちをつくろう」
2020/1/11, 12	体験講座「まが玉をつくろう」
2020/1/18～2/9	巡回展「ヤヨペヨペ 国立アイヌ民族博物館PR展」
2020/2/15～3/8	企画展「あなたの知らないスゲの世界 in 釧路」
2020/2/15	自然観察会「冬のいきもの観察会」
2020/3/1, 8, 15, 22	講座「学芸員トーク」
2020/3/14～5/17	企画展「釧路のイトウと淡水魚」 (仮)

### 北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
9/13～10/6	(主催) 「北海道遺産選定記念 鶴居村簡易軌道資料展示」
9/13～11/7	(主催) 「宇宙象 嶋崎誠展 ガラスの魂が語る」
10/14, 22, 11/3	(主催) 「宇宙象 嶋崎誠展 作家によるギャラリートツアー」
11/2	(共催) 「道銀文化財団 Art Ensemble #10～Concert～ 北海道立釧路芸術館コンサート」
11/30～2020/2/11	(主催) 「生誕115年 片岡球子と難波田龍起展」
11/30	(主催) アートシネマ館「ビック・シック ぼくたちの大いなる目ざめ」
12/14	(主催) アートシネマ館「コッホ先生と僕らの革命」
12/26～2020/1/19	(主催) 「冬のキッズアトリエ」
2020/1/18	(主催) アートシネマ館「ゆらり」
2020/2/28 ～4月上旬	(主催) 「所蔵品展」
2020/2/28 ～4月上旬	(主催) 「新収蔵展示 高坂和子の世界～野の花たちのささやきに」
2020/2/29	(主催) アートシネマ館「黄金のアデーレ 名画の帰還」
2020/3/5, 12, 19	(主催) 「ミュージアムセミナー」
2020/3月予定	(主催) 「大人の家庭科&お気軽アート教室」 ※テーマ別の3講座



**釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)**

期間	タイトル
10/12, 13, 14	企画展「遊びんピック 2019 「恐竜をさがしだせ! ダイナソー★パラダイス」
10/20, 11/17, 2020/3/14	普及行事「天体観測『星空キャラバン』」
10/26, 27	企画展「ハロウィンイベント『Happy Halloween!』」 (仮)
11/3	企画展「サイエンス屋台村」
11/30	企画展「クリスマスツリー点灯式」
12/21, 22	企画展「クリスマススペシャル」
2020/1/4~1/19	企画展「冬休みイベント」
2020/1/12	企画展「ジオ・フェスティバル」
2020/1/12, 2/2	普及行事「太陽観測会『太陽の素顔を探れ!』」
2020/2/15, 16	企画展「とり+かえっこ」
2020/2/29, 3/1	企画展「ひなまつりスペシャル」
2020/3/25~4/5	企画展「春休みイベント」

**弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 (015-482-2948)**

期間	タイトル
10/1~31	体験「アイヌ民族衣装試着体験」
10/1~31	体験「アイヌ文様刺繍体験 (本のしおり、コースター)」

事務局からのお知らせ	
<p><b>■会費納入のお願い</b></p> <p>当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。</p> <p>【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 （普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】  【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】</p>	
<p><b>■北海道博物館協会ホームページ</b> <a href="http://www.hkma.jp/">http://www.hkma.jp/</a></p> <p><b>■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」</b> <a href="http://www.hk-curators.jp/">http://www.hk-curators.jp/</a></p>	
<p>道博協ニュース 第 125 号</p> <p>発行日 2019 年 10 月 18 日</p> <p>発行者 北海道博物館協会</p>	<p>北海道博物館協会事務局</p> <p>〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内</p> <p>電話：011-898-0456</p> <p>メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com</p>